令和４年度　江戸川区立小松川第二中学校　学校関係者評価　最終評価用報告書

学校教育目標	・思いやりのある心豊かな生徒 ・進んで学び考えて行動する生徒 ・規律を守り責任を果たす生徒　・心身を鍛えたくましい生徒	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	生徒一人一人が毎日、目を輝かせながら通える学校 自ら学び、思いやりの心を持ち、将来に向けて努力する生徒 自らの力を最大限に発揮し、生徒の育成に努める教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞服務事故の防止、3年間のうち3年目となる道徳の授業の研究 ＜課題＞増加傾向にある不登校生徒、OJT体制を活用した組織的な生活指導、新学習指導要領完全実施に向けての授業改善		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	外部人材を活用した放課後学習教室	・放課後学習教室を年100回	B	B	外部人材を活用した放課後学習教室を設置し、年間を通して放課後に学習の場を提供することができた。	B	放課後まで、生徒の学習の場を提供してもらえるのはありがたい取組である。	放課後学習教室での取組が授業で取り組んでいる内容ともっとリンクさせていく。次年度は英語についても進める。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実 ・学校図書館を使った授業の充実	朝読書の推進 ビブリオバトルの開催	・年1回ビブリオバトルの開催	B	B	図書館やパソコンを効果的に活用し、社会科や総合的な学習の時間、理科などの授業で探究活動を進めることができた。また、朝読書で読んだ本について、振り返らせることで自分の興味関心について改めて考えるきっかけとすることができた。ビブリオバトルの取組が軌道に乗りつつある。	B	読書については、すべての学力の基礎となるので、これからも取組について継続してほしい。	次年度も継続していく。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	体育の授業に基礎体力トレーニングを取り入れる	・毎回の体育の授業の最初に基礎体力トレーニングを取り入れる	B	C	体育的な行事がなかなかできない中で、授業中に基礎体力トレーニングを取り入れ、体力の維持向上に努めた。	B	授業での様子に活気があった。	感染症対策のためなかなか運動量が確保できないので、工夫が必要である。
	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	国際理解教育の推進	・講演会の実施1回	C	C	講演会を実施し、生徒にとって夢や目標を持つことの大切さを考えさせる機会にすることができた。	B	外部講師を招聘しての講演会、生徒にとってとても有意義な時間であった。	次年度も継続していく。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	スペリングコンテスト実施 オールイングリッシュによる授業	・アクティビティを毎時間の授業で取り入れた授業の実践	B	B	英語に触れる機会を多くとることで、楽しく英語を学ばせることができた。	B	ALTを積極的に活用できている様子が見られた。	次年度も継続していく。
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	いじめの早期発見・早期対応 不登校傾向にある生徒への個別対応	・年3回のいじめアンケートや年2回のふれあい面談の実施 ・週1回のSC会議で情報を共有し、今後の方向性を確認する場とする	A	A	ソーシャルディスタンスを取るため、なかなか人間関係が希薄になりがちな中、教員との面談の機会を増やしたり、人と人とのつながりを大切にする機会を意識的に作ることで、生徒の不安を解消することができた。	A	細かく対応していただいているので、子供たちは楽しく学校生活を送れていると思いますので、今後も引き続きよろしくお願いいたします。	次年度も継続していく。
特別支援教育の充実	特別支援教育の推進	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・配慮を要する生徒に対してUDの視点を取り入れた個に応じた組織的な対応を検討する校内委員会の充実	・毎週1回の校内委員会を実施し、生徒への対応を検討する	A	A	年度当初には特別支援教育に関しての研修を行い、全教員が共通理解ができる状況を作ることができた。また、配慮を要する生徒について、担当学年だけではなく、全教職員で共通理解をする場を設定し、誰でも対応できるようにすることができた。	A	それぞれの生徒の特性を理解して対応していただいているので、今後とも引き続きよろしくお願いします。	次年度も継続していく。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	トライアングル研修の実施 特別の教科道徳の評価に関する研修の実施	・トライアングル研修は年3回 ・特別の教科道徳の評価に関する研修は年3回	B	B	新学習指導要領完全実施に向けて、ICTを効果的に活用しながら研修を進めることができた。	B	学校公開を拝見でき、ICT機器の活用などを含めた教員の授業改善が進んでいた。	新学習指導要領完全実施に向けて、授業力向上に向けた取り組みを進めていく。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実	SC会議の充実 個に応じた指導の充実	・特別支援教育に関する研修年2回	A	B	個に応じた支援の必要性を理解し、指導の充実を図ることができた。	B	これからの時代、必要な取組になると思うので、地域にも発信してほしい。	個に応じた対応をさらに丁寧に効果的にそして組織的に行えるように情報共有をする。
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	連携授業や初任研等の連携協力	・部活動体験や作品交流	B	C	働き方改革が弊害となり、小学校との連携を取りにくい状況がある。	B	小中が連携することによって子供たちを地域で育てていってほしいです	近隣小学校との連携について、新しい形を模索する必要があある